2009年度東海体育学会講演会

今、スポーツ教育を考える

日比野寛（旧制愛知県立第一中学校長）の教育を中心に

木村吉次（中京大学名誉教授）

平成 20 年 3 月の中学校学習指導要領の改訂で部活動を「学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること」という方針が示された。いままで教育課程外に追いやって、あまりふれないようにしていた部活動が学校教育の中にふたたび位置づけたことの意味は大きい。それをそれぞれの学校がどう具体的に展開するかが今後問われることになる。

そのとき、いままで行ってきたことを着実に発展させていけばよいと考える学校があるかもしれないし、またあらたに相当の努力を傾けて従来と違った行き方をとろうと考える学校が現れるかも知れない。いずれにしてもこの方針に従うならば、それぞれ自校のこれまでのあり方を振り返ってみることからスタートしなければならない。自校の教育活動はどのように展開してきたのか、そこに本音では部活動をどのように位置づけていたのかを明確にする必要がある。これは、別の言い方をすると自校の教育の歴史と伝統を回顧し、再検討することである。

その点に関して考えるとき、私たちは検討してみるべき一つの好素材（モデル）がある。それは、**1899（明治 32）年から 1917（大正 6）年まで愛知県立第一中学校（現旭丘高等学校）の校長の任にあった日比野寛の学校経営であり、そこのスポーツを通しての人間形成の営みである。**日比野は、生徒に運動部活動を積極的に奨励しただけでなく、自ら生徒の先頭に立って全校生徒の長距離走（マラソンということばがなかった当時から）を行ったり、ラケットを握ってテニスコートに立ったりして徹底したスポーツ教育を行ったのである。それは、我が国の中等教育界にあっては類を見ない先駆的なスポーツ教育であって、校長の職を辞した 1917 年に読売新聞主催東海道五十三次駅伝競走に関西組として単独で参加し、関東組に対抗したことや大阪朝日新聞主催の第 3 回全国中等野球優勝大会で優勝したことなどで一つの頂点に達した。こうした日比野校長時代の実績が**愛知一中の伝統を形成**し、日比野校長以後にも受け継がれたものとみられるし、また県内外の中等学校にも影響を及ぼしたと考えられる。このような**日比野のスポーツ教育の実際とその伝統化を検討**して、そこから私たちはいま、何を学ぶことができるのかを考えたい。

日時：2009 年 6 月 27 日（土）14:30～16:30（講演無料、終了後懇親会）

場所：中京大学名古屋キャンパス・ヤマテホール（センタービル0号館 2F）

（所在地）　〒466-8666　名古屋市昭和区八事本町 101-2
（交通案内）　地下鉄鶴舞線八事駅下車 5 番出口より徒歩 0 分
〈キャンパス案内〉　http://www.chukyo-u.ac.jp/koho/gaiyo/map/map.html
〈交 通 アクセス〉　http://www.chukyo-u.ac.jp/koho/gaiyo/map/kotu-n.html

（注）公共交通機関をご利用ください。

主催　：東海体育学会
問合せ　：企画担当・庄司節子（名古屋経済大学：E-mail s-shoji@nagoya-ku.ac.jp）